



東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京コミュニティーセンター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

ワイズの信条

- 1.自分を愛するように隣人を愛そう
- 1.青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1.世界的視野をもって国際親善を図ろう
- 1.義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
- 1.会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

- 1.個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する
- 2.ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
- 3.地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
- 4.宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
- 5.健全な交友関係を作り出す
- 6.この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

【2022~2023主題】

国際会長 Ulrik Lauridsen (Denmark)

主題：“Let Your Light Shine” 輝かそう、あなたの光を

スローガン：“Good Communication Is the Cornerstone in Every Cooperation”

「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen (Taiwan)

主題：“Elegantly Change with New Era” 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

スローガン：“Doing It Right Now” 「今すぐ実行を」

東日本区理事 佐藤 重良 (甲府21)

主題：“Let's act now for the future” 「未来に向けて今すぐ行動しよう」

スローガン：“Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!”

「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」

あずさ部長 後藤 明久 (富士五湖)

部長主題：『ワイズへの参加と交流を楽しもう』

副主題：とにかく参加しよう、リアルとズームで行動し発信しよう

東京武蔵野多摩会長 中村 吉孝

会長主題：「未来に向けて、まずは会員増強から」

2023年

5月の聖句

父が私の名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、私が話したことをことごとく思い起こさせてくださる。
「使徒言行録第2章24節」

5月例会の予定

強調月間：LT、ユース

DBC (神戸学園都市クラブ) 合同例会

日時：5月18日(木) 18:30~20:00

会場：各自Zoom参加

〈プログラム〉

司会(進行)：中村(東京武蔵野多摩)

*開会挨拶：中村会長

*点鐘：神戸学園都市クラブ会長

*ゲスト、ビジター、メンバー紹介

*プログラム(各クラブから)

*ハッピーバースデー

*連絡、報告、にこにこ

*閉会挨拶、点鐘：岡山クラブ会長、
神戸学園都市クラブ会長

4月例会報告

出席者	7名
在籍者	9名
メーキャップ	1名
出席率	89%
ゲスト(リーダー)	6名
ビジター	0名
メネット・コメント	0名

*5月のハッピー・バースデー
該当者なし

ファンド関係

	4月度	累計
にこにこ		
にこにこ	8,000	42,300
2次会にこにこ	1,850	4,053
メルカリ	1,260	10,407

IBC

Tsim Sha Tsui Y's Men's Club (香港)

Seoul Han Yang Club (韓国)

DBC

神戸学園都市ワイズメンズクラブ



ワイズメンズクラブ紹介ページ



東京武蔵野多摩クラブWEBページ



Facebookページ

【2022-23 クラブ役員】

会長 中村 吉孝
副会長 小林 文彦
書記 山口 直樹
会計 宮内 友弥

子どもの成長

山口直樹

先日、私がかかわっている地域に新しい子どもを含めた全世代型の居場所がオープンした。子どもをはじめ、あらゆる世代が気軽に集え交流することができる「元気と未来をつくる」場所として準備されたものである。合言葉は、「つどう、つながる、つくりだす」どこかで聞いたような気もするが、より直接的でわかりやすいかな。

早速、小学生くらいの子どもたちや、子連れのお母さんたちを中心に大いににぎわっている。そこは特に規則を作って制限するのではなく、利用者が自分たちで考えていくことを願っているとのこと。早速、勉強をしに来ている子どもから(もちろん勉強できるスペースもある)遊んでいる小学生がうるさいとのクレームも来ているとのことだが、どのようになっていくか見ものである。

ここで過ごしている子どもたちを見ていると、少なくとも今は学校とは違う場所で過ごすことのすばらしさを存分に味わっているような気がする。自分たちでその環境を利用し、出来るだけ楽しい時間を少しタイトの、本来の子どもの姿を垣間見れる。

今、子どもたちが過ごす場所はともかく学校中心で、学校以外の場所は非常に影が薄くなってきている気がする。学校ではどうしても、学校での関係やルールがあり、その枠を超えることは大変難しいと思える。そのような束縛から離れて、いわゆる自由な「遊び」の存在は、見えない。

子どもが成長していく場として、学校以外(家庭は除いて)は少なくなっているのではないかと痛感してしまう。子どもの成長にとって、様々な場が用意され、それぞれの場で様々な経験をする中で成長していくことが必要となっているのではないだろうか。そのような状況で、知らなかった人に出会うこともでき、知らなかった自分に出会うことができるのではないだろうか。

むかし、YMのキャンプで経験させていた普段と違う環境「非日常」の場での体験が、子どもの人としての成長に有効で、また必要であると痛感している。普段と違う環境で、知らなかった人間同士の関係で、新しい自分に気づくことができるような場だったと思う。

今、子どもの居場所に関して、様々なところで試みが始まっている。もっと盛んになってほしいものである。今の時代には大変難しいとは思いますが、もっと様々な場を体験できるような環境にならないかと願うものである。

*江尻明子(自己紹介)

「はじめまして」というよりも「ただいま!」という言葉が一番ふさわしいのかもしれない。

私が職員として初めて担当させていただいたワイズが、武蔵野多摩ワイズ(武蔵野ワイズ)でした。巡り巡って西東京、そして南の新たな取り組みの担当となりました。

準備の時間もなく、4月からいきなりのスタートでまだまだ国立や国分寺、多摩地域の状況を把握することからのスタートですが、ひとつひとつ課題を見つめながら、皆さんとともに歩んでいきたいと思っています。

いろいろな面でお力、お知恵をお借りしたいと思っております。キャンプネームは学童クラブの担当を経て「あっこ」から「えじそん」に変わりました。どうぞよろしくお願いいたします。

4月例会報告

山口直樹

4月12日(水)19:00~20:30

会場 東京YMCA 西東京センター

出席者 中村、伊佐(オンライン)、板村、小林(オンライン)、宮内、山口、渡辺、出沼、麻生、大輪、野尻
ゲスト 木村郁さん(スピーカー)、中村扶実子さん(会長メネット)

本日の卓話は、調布市教育相談所の木村郁さん。中村会長メネットの大学の後輩で、公認心理師として心理相談員として働いておられる。最近状況が緩やかになってきたが、今までの3年間大変であったコロナの子どもたちへの影響をお話いただいた。



まず、教育相談所の主な二つの働きについてお聞きした。

1つは心理面のケアを目的とした来所相談。不登校や発達障害など様々な学校や家庭などでの困りごとなどの相談を受ける。もう一つは、就学相談で、どのような学びの場が良いかの相談を受ける。

木村さんは、来所相談を中心に仕事をされており、本日はそのケースのお話を聞いた。対象は3歳から18歳、継続してフォローしているケースもあるとのこと。具体的には保護者や子どもとの面接、子どもとの遊びを通してのかかわりで心をほぐすプレイセラピーを行ったり、子どもの状況によってかかわり方を工夫し対応している。また、心理検査などを通じて子どもの理解を深め本人や保護者への支援をしている。子ども本人が来所しない場合には直接やりとりができないこともあるが、保護者との関わりを通し対応し支援をすることもある。本人も含めた家族への対応が行われており、子どもとその家族である保護者が安心して過ごしていくことができるようにすることも大切な仕事とのこと。対応する内容により、他の福祉の部署や児童相談所などとも連携していくこともある。また、大きな事故や事件などがあった場合は、子どもや関係者への心理的な緊急対応もすることもあるとのこと。大変重要な仕事であることが良く伝わってきた。



2020年2月末に唐突に出された学校の休業宣言。その結果、3月から夏休み前までは休校、その後も変則的な授業など様々な形がとられ、部活などは活動方法の制限など大きな影響があった。子どもたちにとっては、学校が休みで授業がなくなり部活動もできなくなり、今まであった自分の居場所がなくなってしまった感じを持った子もいたと思う。そのことにより心の安定を崩してしまい行動に変化が出てしまうケースもある。

逆に今までは学校の存在が負担になっていたが、休校などで学校の存在感が小さくなり、気持ちが楽になり、新型コロナウイルスのオンライン授業など新たな試みにより学校での活動に参加できるようになったケースもあるとのこと。オンライン対応については、全国でのタブレット端末の小中学生への配布が背景にあり、それを活用することにより使い集団で学ぶことが苦手な子どもにとって、学習する機会を得ることもあったとのこと。

また、家庭においても働き方の変化により生活スタイルも変わり、これまで外に出て仕事をしていた保護者(主に父親か)がリモートワーク等により家庭にいる時間が増えたことの影響もかなりあったとのこと。自宅で仕事を行うことが増え、家族の関係が変わり、父親が家庭で過ごす時間が増えたことで子どもと接し方や夫婦で関わる時間の変化など、良いことも悪いことも表面に出てきた。今まで表面に出ていなかった問題が浮き彫りになったり、逆に気持ちを楽にすることが起こったりと、様々なことがコロナによって起こっていることが分かった。

木村さんの話は、分かりやすい語り口で、また守秘義務のことも配慮されながら話していただけた。問題行動の背景に様々な要素があることもケースの話の伺う中でよく分かった。考え方の基本としてBPSモデル(生物・心理・社会的側面の相互の影響を考える)の説明もわかり、理解を深められた。コロナの影響は我々にも様々な影響を与えたと思う。ワイズ活動では良い面を強く意識して、前に進めたらと思った時間でもあった。

今までの担当主事の出沼さんから、4月より担当主事の変更の報告があった。新しい担当主事は江尻明子さんで、昔西東京センターのスタッフだったこともある。よろしくお願いします。

<東京YMCA便り>

江尻 明子

1. 2023年度より品川区北品川（御殿山トラストタワー内）に新規オープンする「東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山」は、プレオープンとして、3月22日からスプリングプログラム（春休みの短期水泳教室）を開始した。開設準備やメンバー募集も順調に進み、4月からは幼児から高校生を対象とした水泳クラスが本格的に始動する。
2. 2021年度で事業を終了した国立にある西東京、そして野外プログラムを除いた南センターが、「地域福祉事業部の居場所事業」に部門変更となった。
4月現在は、オープンスペースlibyを主たる事業としているが、今後、地域との連携を視野に入れつつ、学習支援、外国にルーツを持つ子どもへの日本語支援など、必要な機会や場を十分に得られない子どもたちを支える取り組みを新たな事業として行っていく。南と西との2拠点を抱えつつ、2名の職員のみ体制となったため、これから多くの支援者や協力者を集めながらの展開となる。
3. 人と交わり人と関わることで、よりよい人生を創り出すことが大切であることを学ぶ3日間、「Youth must go on~見えていないものが ほらそこに」をテーマに岡山・せとうちYMCA主催で実施される。3年生以上だった対象枠を1年生からに広げ、多くの全国のリーダーたちが集える場として計画されている。東京から3名のリーダーとスタッフの派遣を予定している。

【日 程】2023年5月4(木/休)~6日(土) 2泊3日

【会 場】倉敷市自然の家（岡山県倉敷市児島由加2708）

4. 今後の日程

- ・全国リーダー研修会 5月4日~6日 せとうち・姫路YMCA
- ・「YMCA世界大都市会議（YWUN）」 5月14日~19日
（米国ブルーリッジ・アッセンブリーYMCA）
- ・「第20回会員大会」5月27日 会場：山手センター

* 5月例会ご案内

5月例会はDBC合同例会となります。

当クラブとDBCの神戸学園都市クラブと、神戸学園都市クラブとDBCの岡山クラブと3クラブをつないで合同例会を行います。

メルカリ報告

2023/4/11 ¥150

2023/4/14 ¥420

2023/4/11 ¥450

2023/4/12 ¥240

今月および今後の行事予定

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 5月13日（土） | 第3回評議会（松本） |
| 5月18日（木） 18：30～ | DBC合同例会（Zoom開催） |
| 5月24日（水） 19:00～ | 5月第2例会（Zoom開催） |
| 6月3-4日 | 東日本区大会（甲府） |
| 6月14日（水） 19:00～ | クラブ総会 |
| 6月28日（水） 19:00～ | 6月第2例会（Zoom開催） |